
雨

秋月 弥生

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨

【Nコード】

N5840S

【作者名】

秋月 弥生

【あらすじ】

失恋した男の思いの詩です。

詩「雨2」<http://ncode.syosetu.com/n8446w/>とリンクしています。

（前書き）

詩「雨2」とリンクしています。

そしてこの詩の小説版が完成しました。タイトルは「雨」雨宿りからはじまった恋」です。

合わせて宜しくお願いします。

鬱陶しいぐらいに雨は降り続いて

でもその雨はとてもイヤじゃなくて

俺の失恋した痛みを洗い流してくれる

そんな優しい雨で

俺はずっと見ていたんだ

雨音が悲しい音に聴こえて

失恋した俺の胸にダイレクトに伝わる

いつそうこのまま傘も差さずに外へ出て

思いつきり泣けば誰も涙と気づかないだろう

でもそうする勇氣は俺にはなくて

ただ膝を抱えて雨を見ていたんだ

この雨は数時間もすれば止むだろう

でも俺の痛みは止みそうにない

たぶんこの痛みは一生消えない

この先も雨が降って俺を癒してくれても

俺の心は癒されない

俺を癒してくれるのは雨じゃない

“ お前なんだ ”

何度も心の中で叫んだ

この声はお前に届かないだろう

これから先も雨が降るたびに思い出すだろう

お前と一つの傘に入って歩いたことを

もうその笑顔は俺だけのものじゃないけど

俺の記憶に残った笑顔は俺だけのもの

雨が止んで虹が出たら電話してみよう

“ もう一度やりなせないか？ ”

間違いなく答えはNOだけど

気持ちを伝えないよりはマシだから

（後書き）

詩「雨2」とリンクしています。

雨を見ていたら思いつきまして、それで一気に書きました。

失恋した男が雨を見ながら思いにふけてます。
いるのかしら…そんな男性…

そんな声が、読者様から聞こえてきそうですね（苦笑）

虹が出たら告白する。出なかったら告白しないのか。
出て告白したらどうなったのか。

そこは皆様のご想像にお任せします（笑）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5840s/>

雨

2011年10月8日15時40分発行